

令和5年度 久留米市立良山中学校校区人権学習会 報告書

令和5年10月11日(水) 18:30~20:20

講師：「ぼちぼちの会」会長 木村 素也

講演：『 登校に悩む子どもたちの理解と支援について 』

令和5年10月11日(水) 18時30分から久留米市立良山中学校の体育館で学習会が実施されました。講師は私「ぼちぼちの会」会長の木村素也でした。当日は良山中校区の保護者だけでなく、人権と福祉のまちづくり推進協議会会長、地域の方々、岩本校長先生・教職員・PTA関係者など多くの方が参加され学習会を行いました。



講演の中で、①不登校の現状と課題②最近の不登校生の特色③不登校生の「学校に行けない」の原因は何④学校に行きたくても行けない子ども達に対する具体的な考え方やサポートについて⑤環境的要因と個人的要因などについてお話ししました。

90分ほどの限られた時間ではありましたが、保護者や先生方も頷きながら熱心に話を聞いておられました。次回はまた機会があれば話の続きをさせていただければと思っています。今後よろしくお願ひします。



・参加者の構成			
保護者	44名	地域	27名
学校職員	41名		
合計	112名		

アンケートの感想（所属のPはPTA、Tは教職員 Dは地域の方）

所 属	学習会を受けての感想があれば、お書きください。
P	知り合いのお子様にも不登校の方が数名いらっしゃいます。 我が子には、いませんでしたが、大変さは良く見てました。 年々不登校のお子様が増えている、他人事ではない現状、家族や、学校大変だと感じます。
T	不登校の原因を多面的に考えるよききっかけになりました。
P	参考になりました。
P	大変勉強になりました。考え方が変わりました。
T	不登校になっている子どもへの対応の仕方を大きく見直しました。教職員として、なんとか登校できるようにと躍起になっていました。行かなくてもいい。と思うところから、私は考え方を変えていきたい。そして、教職員として、できることを考えていきたい。できないことはしない、できることをする、それを自分で決める、これらは大切にしていきたい。
T	不登校傾向にある児童に対して、学校に来るメリット、来ないデメリットを話すというお話に納得しました。私は、ゲームに熱中しているため、不登校傾向にある児童を担当しています。その子に対して、ゲームをすることは悪いことじゃないこと、私自身の経験と児童に寄り添った話をするので、その児童に指導をしたが、その話の最後に「でもね、学校に来るとね。」という風に結局学校に来ることのメリットをつらつらと話ただけで、子どもに真に寄り添うことはできていなかったと感じた。様々なことを考えさせられたお話でした。
P	不登校は人権問題 子どもが納得できるように本音で話をする事。 今できないことはしない！できることを自分で決めてやる！ 評価が欲しい、できることを社会に向けて伸ばしていく。 いろんな生徒さんの事例のお話からも多くのことを学ばせて頂きました。ありがとうございました。
P	素晴らしい公演でした
T	良山中学校の2学年にとっては、すごくタイムリーな学習会でした。 特に、不登校生徒に限らず学校生活の中でも自尊心の低さを感じる場面が多く、自信のなさも感じます。 学年を通して、工夫していきたいと思いました。
T	まず学校に戻したい！という考えが、一番になってしまいますがその中で子どもの自尊感情を大切に考えた関わりを大切にしたいと感じました
P	貴重なお話を聞いて良かったと思います 周囲の方々にも是非 本日のお話を聞いて頂きたいと感じました

	ありがとうございました
P	
P	不登校を持つ親ですが講話を聞いて今、取り入れる事が出来ていない事を取り入れていきたいと 思います。親として悩み、戸惑う事が多いですが子供と向き合っていくうえで大切な事を教えて頂 いたと思います。ありがとうございました。
P	
T	不登校の子どもたちを努力しようかと導いた経験をもっと聞きたかった。
P	お話がわかりやすく、納得させられる点が多く参考になりました。 半分くらいということでしたが、最後までお話伺いたい内容でした。 ありがとうございました。
P	良山中でも不登校や保健室登校の子がいることは知っていましたが、具体的に保健室登校の子 はどう過ごしてるのか(リモート授業なのか)、学校やDの取り組みなどの詳しい情報は、Pも生徒 も知らないのが現状です。 まずは広く情報共有をすることで、Pや生徒が状況を知ることができ、一緒に不登校の友達のこと や環境作りを考えることへの第一歩につながるのではないかと思いますので、例えば、学校だよりに 良山の現状や取り組みを掲載するなど、情報公開してもいいのではないかと思います。
P	不登校を考える親の会ネットワークふくおか加盟団体にご縁があり、色々な状況のPの方と共有 したり、出来る範囲で学習会に参加させて貰っていますが、今日の木村先生こそ長き経験ある支 援策等のお話で、自分で蓋をしていた所がやっぱり重要だったと再確認できました。後、夜に開 催して頂いたのも、参加できるきっかけとなりました。関係者の皆様、お忙しい中ありがとうございました。
P	子どもが小学6年生の頃、担任の先生とコミュニケーションがとれず、保健室登校をしていまし た。養護の先生は、誰よりも子どもの話をよく聞いてくださっていたこと、教頭先生からは、登校時 間には自分で学校に来れているから、まずは、そこを認めてあげましょう！と言われたこと。スク ールカウンセラーの先生からは、親が自分の経験した事をどんなに上手く話しても残念ながら子 どもには伝わらない！それは、自分(子ども)が経験した事じゃないから！って言われたことなど、 当時は振り返りながら木村さんのお話し聞いていました。学習会に参加出来て良かったです。
P	とても気持ちのこもっている会講演でしたし、わかりやすかったです。 今、息子は楽しく学校に行っていますが、いつ不登校になるかは分からないし、誰もが有り得るこ となので、多くの人が聞くべきだと改めて思いました。
T	「Pの思いを本気で伝える」これはPだけでなく、教職員の私達も同じではないかと思った。確かに 子どもたちは大人をよく見ている。前向きな会話が大切で、本人が決めて実践することが大切と わかった。

P	<p>2学期になり小6の次女が不登校になりました。私は福岡市出身で、記憶が間違いなければ、中学生時代に木村先生の授業を受けていました。何とタイムリーなのだと思います。参加させて頂きました。</p> <p>今まさに悩んでいる私にとって、沢山のヒントがある貴重なお話でした。</p> <p>今回この企画に携われた方々、本当に感謝致します。ありがとうございました。</p> <p>また是非、第二回開催の検討をよろしくお願い致します。</p>
P	<p>子供との向き合い方など考え直す良い機械になりました。</p>
P	<p>自尊心を大切に子育てしていきたいと思います。今は学校に通っていますが、本当に明日は通えなくなるのではと考えるときがあります。本人と話をし、子供のコミュニケーション力を知り、嘘のない親であるように私も努力していきたいと思います。</p>
P	<p>小学校のころ、自分も病気で学校を休みがちで、いじめにあい、行きたくないときもありましたが、友人もけっこう多かったので、友達に助けられた部分大きいと思います。もう50年前の出来事ですが、今でも仕事上の付き合いなので、小学校の頃の友人とは仲良くしてもらっています。話を聞いて、昔を思い出しました。</p>
D	<p>本人も努力しているところをほめる。自尊感情を高める、というところが特に印象に残りました。</p> <p>目先のひとつが視界を広げる。このことは自分自身にもあてはまり、興味深く講演を聞きました。</p>
D	<p>登校に悩む子どもたちの原因および対策について理解できたと思います。今後もし、案件があったら積極的に取り組みたい。</p>
P	<p>不登校とは？色々気づきがあり、学校へ通うことも大切だと思うが、子に合わせた環境の必要性を考えさせられました。</p>
T	<p>不登校の子どもたちは、毎年ぶつかる大きなかべです。学校に行けなくなった子どもたちに、「行くメリット」を言っていた気がします。自尊感情を上げるためには、たくさんほめてあげること。不登校の子どもたちこそ必要な対策だと実感しました。</p> <p>一人ひとりの子どもたちと向き合い、彼らが努力していることに気づいて関わってほしいと思いました。</p>
T	<p>教員としてとてもハッとさせられた。話を聞きながら、子どもの顔がうかんできた。本人を変えようとするのではなく、子どもに寄り添っていきたくと思う。</p>
P	<p>子どもに対する態度を変えなければ...と思った。子どものことを考え、尊重することが大事なんだと感じた。</p>
P	<p>「自分に原因があると思ってしまう」というきめつけからの脱却こそが、あらゆる人間関係の解決が力づくとなっているのではないかと思います。</p>